

地域産品の商品開発事業戦略論 - 高知県における 事例分析から -

著者	隅田 和稔
発行年	2014-03
その他のタイトル	Study on the Strategy of Regional Products Business Development - a Case for Kochi Prefecture Japan -
学位授与機関	高知工科大学
学位授与番号	26402甲第260号
URL	http://hdl.handle.net/10173/1122

氏名(本籍)	隅田 和稔(高知県)
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	甲第260号
学位授与年月日	平成26年3月20日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項
研究科・専攻名	工学研究科・基盤工学専攻
学位論文題目	「地域産品の商品会開発戦略論」 —高知県における事例分析から— Study on the Strategy of Regional Products Business Development — a Case for Kochi Prefecture Japan —

論文審査	(主査) 高知工科大学 教授 渡邊 法美
	高知工科大学 教授 富澤 治
	高知工科大学 教授 末包 厚喜
	高知工科大学 准教授 坂本 泰祥
	高知工科大学 講師 生島 淳

審査結果の要旨

1.論文の評価

本研究は地域活性化を目的とした地方における一次産業生産品の高付加価値化を目指す事業体に関するものであり、その成功のための要件を事例研究によって抽出したものである。

少子高齢化が進む地域において、地域活性化を目的として一次産品を利用した商品開発が多数行われ、行政の援助、補助も行われているが目的を達成しない場合が多々ある。これらに共通する問題点は中長期的な地域活性化という目的から離れ、開発した、或いは開発しつつある商品の収益を近視眼的に目指すところにあると考えられる。本研究は高知県内の限界集落に近い状況の中にながらで比較的的成功している複数事例をマーケティング、経営戦略的視点から詳細に調査・分析を行い、「地域活性化のための商品開発」に対して以下の要件をベースとした事業戦略のフレームワークを提示したものである。

- ① 商品のブランド化 (歴史、風土、希少性の活用)
- ② 事業持続性 (商品の短期的収益よりも地域からの共感)
- ③ 事業リスク (少品目の事業規模拡大より多角化)

本論文は高知県中山間地域の事例研究であるが得られた成果は疲弊しつつある地方の中山間地域の問題点に対する普遍的な解を提示したものである。地方における一次産品を資源とした事業展開を行っている組織の指針ともなりうる極めて有益かつ独自性の高い論文であり、博士請求論文として十分なものであると思料される。

2.審査の経過と結果

- (1) 平成26年1月15日 博士後期課程委員会で学位論文の受理を決定し、5名がその審査委員として指名された。
- (2) 平成26年2月12日 公開論文審査発表会及び最終試験を実施した。
- (3) 平成26年2月19日 博士後期課程委員会で学位授与を可とし、教育研究審議会で承認された。